

大學裡的原住民族研究▶ 笠原政治教授 在政大的客座講座

笠原政治教授の政治大学客員講座

Prof. KASAHARA Masaharu's Guest Lecture Course at National Chengchi University

文（日本語・漢語） | 齊藤啓介（政治大學台灣史研究所碩士生）

圖 | 政治大學民族學系

政治大學民族學系於99學年度第二學期，邀請了日本橫濱國立大學榮譽教授笠原政治教授擔任客座教授，與台灣學生分享笠原教授研究生活中一點一滴累積出的豐富且精彩的研究成果。

政治大學民族學系於99學年度第二學期，邀請了日本橫濱國立大學榮譽教授笠原政治教授擔任客座教授，與台灣學生分享笠原教授研究生活中一點一滴累積出的豐富且精彩的研究成果。

笠原教授的略歷

台灣先住民との關係は深く長いもので、一貫してプユマ族、ルカイ族、ツォウ族の研究されており、その研究は社会や文化の側面からアプローチする文化人類学（社会人類学とも）と言う分野に分類される。先住民研究の他、アイヌや沖縄の人等日本国内の少数派社会に対する知識も豊富である。特に台湾先住民研究に至っては、戒嚴令解除前から毎年の夏期休暇を利用して先住民集落を訪れフィールドワークやインタビューを行っていた。先住民の古老達は日本語に精通している人が

笠原教授簡介

笠原教授與台灣原住民的關係既長且深，且對卑南族、魯凱族及鄒族3族素有一貫的研究。其研究領域乃為以社會文化為切入點的文化人類學（亦稱社會人類學）。此外笠原教授對於北海道的愛努人與沖繩（琉球）人等日本國內的少數民族也有相當的瞭解。至於台灣原住民研究方面，笠原老師自解嚴前開始，每逢暑假之際，皆會拜訪原住民部落進行田野調查及口述訪談。由於部落長者們日語流利，加上笠原教授豪爽的性格，雙方才得以建立毫無窒礙的友好關係，也使得笠原教授的論文有著獨



笠原教授於1977年首次拜訪台灣。



笠原教授（中）於政大民族學系開設「民族學/人類學視野下的台灣與日本」學士班選修課程，右為張中復系主任，左為負責口譯的齊藤啓介。

多く、笠原氏の明るい性格も重なり、非常に友好な交流関係を築く事に成功し、その成果は学術論文にも花を添えている。

授業の特色

笠原氏と政治大学民族学科は古くから学術交流を続けており、民族学科の陳文玲教授とは十数年来の旧知の師弟関係である事、民族学科が毎年外国人教授を招いて授業を行って頂く伝統がある事から、この度笠原氏の授業が実現した訳である。しかしながら、一般の台湾人学生が対象となる授業故に、日本語

特有的見解。

講座の特色

政大民族學系與笠原教授長年以來已建立起良好的學術交流關係，系上教授陳文玲老師更是笠原教授10多年來的老學生；本次講座係秉持政大民族學系每年邀請海外教授開課的優良傳統，笠原教授開課指導台籍學生的計畫才得以實現。然而由於課程對象為台灣學生，以利學生理解，本次講座採取了日中逐步口譯的方式進行。然而無論講課方式或是教學對象的改變，對笠原



笠原老師自解嚴前開始，每逢暑假皆會拜訪台灣原住民部落進行田野調查。由於部落長者們日語流利，加上笠原教授性格豪爽，雙方建立了毫無窒礙的友好關係，也使得笠原教授的論文有著獨特的見解。



課程中透過日本教授的研究才能一窺台灣原住民知識與分析，引發學生的好奇心與注意力。

から中国語への逐次通訳を介した授業を行う事になり、笠原氏にとっては初めての経験になった。履修した学生の所属学科も多岐に渡り、民族学科の他、日本文学学科、中国文学学科、放送メディア学科、更には香港大学から来た北京出身の交換留学生もおり、授業内容のセッティングに相当慎重になった様である。最終的には、学生に誤解を生まない様に、また、退屈にさせない様に写真やイラスト等、視覚的な資料を使い、専門用語を極力使わないで授業を行う事になった。

教授而言都是首次的嘗試，因此笠原教授對於課程內容的安排特別費心。由於修課學生不僅有民族系學生，同時也有日語系、中文系、廣電系，甚至有來自香港大學的北京交換生等等；是故笠原教授決定增加照片、圖片等多媒體教材的比重，取代艱難的學術用語，以免學生誤解上課內容或失去興趣。



修課學生來自民族系、日語系、中文系、廣電系，甚至有來自香港大學的北京交換生等等。



講座主題可大致分為「日本人類學與沖繩、愛努人」、「日治時期的原住民研究」、「笠原教授個人研究」、「沖繩與台灣的歷史性關係」。從豐富的照片資料擷取資訊，點與點地連接成線，協助學生釐清一知半解的概念。

カリキュラム内容

授業内容は大きく分けて「日本人類学と沖縄、アイヌ」、「日本統治時代の先住民研究」、「自身の研究」、「沖縄と台湾の関係」の4つ。初期の日本人類学の発展と台湾先住民研究には密接な関係があり、現在の先住民研究の基礎を作った訳であるが、日本人教授の研究から知る事の出来る先住民に関する新しい知識と分析、豊富な写真から読み取れる情報は学生達の興味と関心を引きつけた。違った角度からの研究は正に点と点を線で繋ぐ様なもので、曖昧だった知識をしっかりとしたものになって来た様である。また、沖縄と台湾の関係に至っては、辺境地との相互関係を述べ、学生に文化交流の違ったアプローチの仕方を気づかせる事が出来た。

学生との交流とそれから得たもの

毎回の授業の最後には学生に感想文を書かせたのだが、「大体5行位」と言う決まりだったのが、熱心で真面目な学生が多かったせいでだろうか、多くの学生が紙いっぱい書いて提出していた。笠原氏は一枚一枚自ら目を通したのだが、そのレベルは非常に高く、学生の授業への取り組み方に対して非常に喜んでいらっしやう。自身も多くの事を学ぶ事が出来たようで、特に現在の台湾人学生の台湾、そして先住民に対する見方が、以前と比べ少なからず変化していた点であった。期末テストの出来具合にも非常に喜んでいらっしやう、学生との交流を通じて、今後の先住民研究スピリットを大きく刺激させられたようである。

課程の内容

本次講座主題可大致分為「日本人類學與沖縄、愛努人」、「日治時期的原住民研究」、「笠原教授個人研究」、「沖縄與台灣的歷史性關係」4個部分。早期的日本人類學發展與台灣原住民研究，關係十分密切，研究成果也成為今日原住民研究的基礎。課程中透過日本教授的研究才能一窺台灣原住民知識與分析，以及從豐富的照片資料所擷取出的資訊，種種因素引發了學生的好奇心與注意力。從這全新的角度觀察之下，點與點的資訊相互連接成線，協助學生釐清原本一知半解的概念，也讓學生能夠進一步地認識原住民。另外，至於沖縄與台灣的关系此一主題，討論到邊緣地區之間的相互關係，也使得學生發現文化交流上不同的切入點。

師生的互動與收穫

笠原教授會於每一堂課的最後請學生寫出簡單的心得報告。雖然教授要求不高，大概5行左右即可，但大部分學生的態度都十分認真熱情，最後交出的報告內容都相當充實。教授也會親自批改每份報告，對報告水準之高為之嘆服。學生積極的求學態度也讓老師十分開心。笠原教授本人亦表示，透過這次機會學到了很多。特別是現在台灣學生對台灣乃至對原住民的意識形態，與老師的認知有所不同。期末報告的表現也令老師相當滿意，本次與台灣學生的近距離接觸想必為老師的研究精神帶來了不少刺激吧。◆